

(前ページから続く)

今日は、4つのグループに分かれ十分に話し合っていたきたい。そのあと、全体会で報告と討議をしましょう。

4つのグループの座長を紹介します。第一グループは大塚委員、第2グループは神林委員、第3グループは川上委員、第4グループは渡邊委員です。

2、分科会(4グループ)の報告(要旨)

第1グループ 大塚座長

忌憚のない話し合いの中から、世代間の文化論の世界にも踏み込んだように思う、つまり教育への支援はまた今の親の世代とかかわる問題でもありともいえるし、さらには我々の孫の世代をよく育てたいという大きな視点からの取り組みといえます。

そうであれば、シルバーカレッジに在学しているときから、そのような視点、意識で学習支援に取り組むことが大切だと話し合いました。

つぎに、我々の支援活動が本当に小学校の教育に役立っているか、この点をつかむためには、現場の先生と話し合うことが必要であると話し合いました。小学校によっては、先生や校長先生、教頭先生と話し合って改善をすすめているケースもあるが、具体的な話し合いを持たないし、持っていないのが現状である。

第2グループ 神林座長

このグループは幅の広い支援をしている人があつまった。図書館の支援、環境教育、学習支援、特別支援に取り組んでいる。

そのなかでの共通している問題点をあげてみたい。

さまざまな活動の中から出てきた疑問点、提案したいことをどのように先生方に伝え話し合うかという悩みがある。我々としては、お手伝いであるという立場を踏まえながらも先生と互いの困難、悩みを話し合いたいと願っている。

また、二人で支援に取り組んだり、たがいの事例研究会、体験交流をしたいという意見もでた。

第3グループ 川上座長

我々はまず体験交流の場にしたいと話し合った。なかよし学級に支援にでている人からは子どもとの交流が楽しいと発言が多かった、ただ、体力がなくとびかかられたり、リコーダを教えられないので困るという話も出た。

普通学級では授業についていけない子どものサポートが大変ということ。

しかし担任の先生を通じて感想文をもらったり、子どもに服を着せるよう頼まれたり、またS小学校に支援に出たいがどうしたらよいかなど話がでた。交通費もでないが給食が出る学校もあるとのこと。学

校によって差があるようだ。

第4グループ 渡邊座長

第4グループは、前段では自己紹介を中心に話し合った。いろいろあるが、ボランティアとしては学校の助けをするのが中心で、保護者との関係及び先生との領域問題までは立ち入らないことも話し合った。

子ども遊びと戦争体験の学習に取り組んで、大変良い反響で楽しかったという発言があった。

後段では、結論として、「学期が終わると、担任の先生、ときには校長、教頭先生と話し合って成果を確認するといったシステムが必要だ」ということを確認した。また、支援活動について教育委員会と話し合ったり、このような支援者の集いに先生方が参加することも必要だとの意見もあった。

3、まとめの全体会(質疑応答) 司会 井上委員
中沢委員長の話

全国的に文科省の指導により学校支援が本格的に展開されることになりました。登下校、図書館、授業など広範囲にわたるようです。

質問 学習支援の学校側の評価を知りたい、また担任、校長、と話し合いたい、もっと校長会に説明してほしい。

中沢委員長回答 教育委員会には資料を渡しています。全校長にも勿論、教育委員会を通じて資料を配っています。

学習支援について小学校からの苦情はありません。我々からの苦情は2,3ありましたが、委員が出向いて話し合い、いずれも学校サイドのコミュニケーションの不足が理由でした。あまりひどいところは支援を断った例もあります。

質問 二人セットでの支援、校長先生や先生が支援者の集いに参加するのはどうか。

中沢委員長回答 原則としては一人単位での支援ですが、戦争体験とか昔あそびなどは多くの支援者が必要ですので、代表の方による準備と学校との打合せが欠かせません。

支援者の集いに教育委員会の人や校長先生に出席して貰うには、やはりはっきりした目的と準備が必要でしょう。

第3回「学習支援の集い」開催ご案内

- 1,日時 平成21年4月21日(火)13:30~16:30
- 2,場所 神戸市シルバーカレッジ 2階学習室
- 3,主な議題 平成21度の活動について
グループディスカッション
その他の情報交換・連絡
登録者に限らず一般の方の参加を歓迎します。